

令和3年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ 「国際教育」 「環境教育」 「表現活動」 を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>■3つの教育テーマのうち、「国際教育」はコロナ禍の厳しい状況下でも、オンライン交流や新たな講演会等に活路を見い出せた。「環境教育」「表現活動」では例年以上に充実した取組を実施できたところもあった。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。</p> <p>■前年度も家庭学習時間数の増加には至らなかった。時間数に焦点を当てた指導から、生徒の学びの意欲に注目した指導にシフトしていくことが課題となる。</p> <p>■進路状況については、四年制大学学校推薦型選抜と国公立大学への進学者数において上昇した。今後は、自己の進路目標の実現を、主体的に追求できる力の育成が今後の課題となる。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページを通して迅速に展開できた。今後も学校の魅力をより一層アピールするよりよい方策を検討し続ける必要がある。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、キャプテン会議等を定期的に行い北稜高校のリーダーとしての自覚を促す指導を進めることができた。今後も、学校リーダーとしての誇りと自信を育てる指導を継続していく。</p> <p>■生徒の自転車マナーに対する苦情は以前より減少し、効果を上げることができた。今後は、ルールやマナーの指導を超えて、自他の命を守る意識を育てる働きかけをおこなっていききたい。</p>	<p>(1) 北稜の魅力伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育活動が数多くあるという本校教育の強みを、「生徒起点」で見直しよりいっそう伸長させる。 ・教育の柱である「国際教育」「環境教育」「表現活動」が、「生徒起点」で、より充実感のあるものとなるように見直しを図る。 ・地域をフィールドとした課題解決力の伸長を通して、グローバルな問題に挑戦する力を育むという、北稜人材育成ストーリーの構築を目指す。 ・部活動、学校行事について、生徒が主体性を発揮し、挑戦する場としての機能を充実させる。 <p>(2) 北稜学習改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」への授業改革、学びにおけるICTの活用、生徒の学びの道筋の多様性に着目した学習指導等に向けて、組織的に研究・実践する。 ・令和4年度からの一人一台端末による学習活動(BYOD)について、試行、研究を行う。 ・進路指導における「データ分析力」と「情報発信力」の強化を図り、生徒が自らの学力の伸長を確実に実感することを通して、モチベーションを高め、自らの夢を見だし、高み挑戦していくという、階段状の進路指導スタイルの構築を目指す。 <p>(3) 北稜の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の多様なニーズに対応できるという、本校の数多くの特色ある教育活動についての情報発信を、「生徒起点」で見直し、より効果的な発信を行う。 <p>(4) 北稜教職員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北稜魅力推進プロジェクトチームを立ち上げ、生徒、地域(中学生)、教職員にとって魅力ある学校創りに向けた取組を全校体制で推進する。 ・教職員自身が生徒のロールモデルとなるように、ICTの活用、形骸化した業務の洗い出し等を通じた働き方改革を進めていく。

評価領域(分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	ICTを活用した学習指導の研究を行う	スマートスクール事業や一人一台端末の実施に向けて、ICTを活用した研究授業や公開授業を効果的に実施する。			
		ICTを活用した授業展開を見据えた校内ネットワークやWifi環境の充実を図る			
教育推進部	北稜の魅力を発信する	「学校ホームページ」の大幅リニューアルによって、全校体制・生徒起点を基盤にした情報発信を強化する。			
		「学校紹介スライド」をリニューアルし、プレゼンテーションを中学生にとってより魅力のあるものにする。			
生徒指導部	部活動の更なる活性化を図る	日常の取組をSNSやホームページ等に積極的に掲載し、生徒の充実感や満足感を高める。 生徒の明るく楽しい雰囲気を外部に発信し、魅力的な学校として次年度の生徒募集につなげる。			
	学校行事の活性化を図る	Withコロナの時代に合わせ、新しい形の北稜祭(文化祭)を生徒会中心に企画・運営させ、生徒の達成感や充実感を高める。 昨年度実施できなかった体育祭を、体育委員会を中心に新しい発想で企画・運営させ生徒の充実感を高める。			
進路指導部	進路指導における「情報発信力」を強化する	入試システムや共通テスト、類似学部の違いなどの進路情報をclassi等を利用して生徒、保護者に発信する。			
		進学補習や模試の申し込みや進路希望調査などをclassiを通して行うことにより、家庭で情報を共有できるようにする。			
保健部	特別支援を充実させる	教務部・学年部と連携し、生徒の状態を早期の段階で把握し、必要な生徒に適切な支援・サポートを迅速かつ効果的に実施する。			
図書部	生徒起点で魅力ある図書館づくりを行う	情報発信の場として、歳時やニーズにあわせた図書紹介や企画展示、教科との授業連携や取組の成果の展示などをより充実させる			
		委員会活動を通じて、生徒の目線に立つ企画イベントに主体的に取り組みさせることによって、多数の生徒達に図書館の魅力を発信する。			
事務部	魅力ある学校環境整備を行う	特色ある教育活動の伸張のための取組の幅を広げることができるよう、校内施設・設備の休眠箇所や不備箇所などの改善・整備を図る。			
第1学年部	高校生活のスタート学年としての基礎を確立させる	生徒の主体性を高めながら、規律ある学校生活の中で、全員が明るく元気に楽しく登校できる学校・学年・クラス作りに努める。			
		学校行事や部活動などに主体的に取り組みさせ、満足感や達成感を感じさせる。			
第2学年部	生徒が充実した学校生活を送り、主体的に活動できるように働きかける	学校行事における生徒自身の満足度を高めつつ、中核学年としての責任感をもった活動ができるように支援し、充実した学校生活を送らせる。			
		家庭学習習慣の確立を図り、個々の進路に対応する学力を身につけさせる。			
第3学年部	進路選択を挑戦の場と捉え、生徒が成長できる方を主体的に選択できる資質を養う	学校行事を通して、話す、書く、描くなどの表現活動に積極的に取り組み、発信力を身につける。(舞台発表、ポスター製作、スピーチなど)			
		生徒へのサポート力向上のために、生徒と教員が双方向でコミュニケーションを図る場を増やす。(面談の回数を増やし会話の質を高める)			